

保育理念に基づく行動指針“私たちの約束”

保育理念「個を受容し、共感するなかで主体性を育む」に基づき、保育者・教育者として

(未満児 Ver)

10の約束を意識しながら保育展開をしてまいります。



1. 笑顔いっぱいで保育します。

- 担任同士で助け合い、余裕をもって保育を行えるようにしています。
- 笑顔いっぱい子どもたちと遊んだり、できたことを一緒に喜びます。トラブルになった際には、表情でわかりやすく伝えます。



2. 子ども一人一人と向かい合って、良いところを見出し、ほめることを大切にします。

- 保育者間で子どもの成長を共有し、さりげなく援助し、たくさんほめることで達成感や満足感、意欲につなげていきます。
- 失敗をした際には、頑張った過程を認めてほめることを大切にします。



3. やりたい気持ちを育てるために、楽しく遊べる保育環境を提供します。

- 子どもの発達や好み、興味に合わせて環境設定・活動・玩具を準備し、提供します。
- 新しい玩具や遊びを行う際には、やり方を丁寧に伝えていき、仲良く楽しめるようにします。



4. 子どもの意欲を受け止め、達成感が味わえるように援助します。

- 自分でやりたいという気持ちや意欲を大切に、挑戦する機会を作り、難しい場合には保育者がさりげなく援助をすることで達成感や成功体験を増やしていきます。



5. 日々のどんな小さな成長も保護者と共有します。

- 保護者の方に連絡帳や口頭で一日の出来事やかわいい姿、イヤイヤ期、頑張りなど今しか見られない成長を共有し、一緒に喜べるようにします。
- ドキュメンテーションを作成し、どのような体験・経験を通して成長をしているのかわかりやすくします。



6. 「ヒヤリ」とすることを見直しします。

- ヒヤリがあった際には、なるべく当日中に用紙を記入し、改善策や原因の追及（職員間での話し合いや環境構成・対応の見直し）を行います。
- ヒヤリハット用紙の回覧を行い、全職員が共通認識を持ちながら安全対策を行うことが出来るようにしています。



7. 年齢に合わせた環境の中で、様々な体験・経験ができるように意識して保育します。

- 保育者が年齢に応じた遊びを学習し、発達や興味に合ったものを提供出来るようにします。
- 行事や季節を通して表現することや季節ならではの遊びを体験・経験することで感受性の向上や表現する楽しさを知ることが出来るようにしていきます。



8. 丁寧な言葉遣いや態度、マナーを心がけます。

- 保育者同士で不適切な発言や言葉遣いがあった際には声を掛け合いながら見直していきます。
- 言葉を獲得していく時期なので、日常の言葉遣いや挨拶など丁寧な言葉を使用するように心がけます。
- 保育者が率先して挨拶をする姿や食事のルールを丁寧に伝えていくことで簡単なマナーに触れることが出来るようにします。



9. PDCAを意識し、一人一人に合わせた保育を実施します。

- 日々の保育や製作活動の反省を担当同士でフィードバックを行い、反省を次につなげていきます。
- 月初めに個別の計画を作り、子どもたちの成長や発達を見ていく中で評価・反省を行い、日々の保育に活かし、次月の個別計画に反映していきます。



10. 「保育は共育」－ あせらず、せかさず、子どもたちと共に成長していきます。

- 子どもたちの成長を担当同士で把握し、ゆったり温かい保育を心掛けていく中で個性の違いを認め、成長のサポートをします。
- 保育者も発達の違いを学び、共に成長していきます。
- 「失敗は成長」という考えの中で頑張った過程を認めて過ごしていきます。